

平成30年度高知県小規模林業推進協議会第2回協議会「現地検討会」議事録

○日時 平成30年 11月16日（金）13:00～16:00

○場所 すこやかセンター伊野

○出席者 63名

1 開会

2 会長挨拶

(中嶋会長)

今日は現場視察ということで、林業を始めて4年目のお二人の山を見に行きます。

去年、一昨年ぐらいから、全国的にも豪雨が頻発し、全国で災害が起こってます。高知でも去年は台風、今年は西日本豪雨があったということで、かなり風倒木が出てました。幾つか調査に行きましたが、特に高知市から香美市にかけて風倒木が多く、ほとんどが間伐施業をしたところが倒れていました。未整備の山も、ちょろちょろありますが圧倒的に間伐整備したところが倒れてます。大きな道や列状間伐の隙間に風が入る。この間伐整備は未整備より悪い整備になっています。

それから、西日本豪雨や去年の九州北部豪雨の後、岡山の東部のほうや、四国の一部を見て周りましたが、ほとんどが、間伐施業、あるいは皆伐をしたところがやられていました。

林業やりながらこういう崩壊が起これると、もうその後続きません。幸いなことに、小規模にやってる、特に自伐の人、西部もかなりいますが、全く壊れてない。この差は歴然です。だから、皆さんが向かってる方向性は自信を持ってください。けども、その作業道の入れ方というのを、とにかくレベルを上げてください。

今日行く佐川町も、西日本豪雨で700ミリぐらい降ったんですかね、ほとんど壊れてないと思います。持続的に林業をやるには、豪雨や風による風倒木や土砂崩壊、作業道崩壊を起こさせないということです。これがあると地域の人も安心します。下流に住んでる人も安心です。逆に防ぐというような展開をしていかないといけないですね。後、関西を視察に行ったときに3割間伐したところがかなり風倒木が出てました。これはやっぱり県には考えてもらいたいです。経営計画は3割以上なんですけど道入れて3割とい

うと、4割近くになります。林野庁は、10立方以上なんで1割でも構わないと。ただ、県が決めていることなので、県は考えないといけないと思います。これは県に対する私からの提案です。

森林経営計画を立てた場合でも、もう2割間伐でもオーケーにしないと、森林劣化を招きます。今回の西日本豪雨がそれを証明してます。大きい3メートルの道を入れれば補助金は出ますが崩壊のリスクがめちゃくちゃ高まります。そうではなく2メートルから2.5メートルのぎりぎりの幅員できっちりやれる人が続けていけます。これを間違わないように。自伐でも大きい道入れようと思ったら入れられますが、これをやると森の劣化、山林所有者と契約してる方は山林所有者に申しわけがないということになってきますので、そこを守りながら、適正な間伐して、次の10年後には材積が増える。生産してるのに、山の材積が減らないという林業をやっていけば必ず自立は見えてきます。

今日行くメンバーの森は、次の10年後、今の山へ入るとき、多分、補助金が要らないでしょう。最初だけ補助金もらう。次の間伐からは完全に自立する山にする。そうなれば、非常に面白くなるし、収入も上がってくる。

ぜひ林業のレベルを上げて、皆さんの生活、ライフスタイルもレベルが上がるように、今日はそれに向かって走り始めた若手と中堅の山を見ていきますので、そういう視点でぜひ見ていただければと思います。

3 実施現場研修地

(場所：滝川氏 施業現場)

○**滝川** 滝川です。協力隊を卒業して、ちょうど1年たちました。

ここの山は協力隊のときから施業をやらせてもらってる民有林で、2ヘクタールぐらいの山で南が全部皆伐されていて、太陽光パネルが敷き詰められているんです。なので、風がすごく通りやすいので、そこを意識して施業しました。2割間伐をしていますが、道が入ってるので、3割間伐ぐらいには切ってるという感じになっています。

○**中嶋会長** 彼は地域おこし協力隊を卒業して1年目でこの道をつけてます。だから割といいんですよ。彼の説明を聞きながら登りたいと思います。

○**滝川** ここは、奈良県の清光林業の岡橋さんに線形をつけてもらいました。ピンクのテープが巻いてあるのが路肩のマークなんですけど、それを全部つけてもらって、チェッ

クしていきました。

○質問者 表面の補強に、この瓦を粉碎したものを使っているのか？

○滝川 はい。普通の瓦だけじゃなくて、日本瓦が不純物がなくて水を吸ってくれるので、それでやってみました。そこの谷で水がすごく出るので、瓦屋さんから、ほぼただ同然でもらってきて、それを普通に落とすだけで割れちゃうので。

あとは、ほんとは地表から少し下げて土をかぶせたほうがいいんで、バックホーで踏んで、その後また土をかぶせてというのを、何層かに分けてやっています。

○中嶋会長 ここ、ヘアピンですね。水が少しそっちに流れてますね。ほんとはこのまま向こうへ出てほしいですね。細かいことですが。水が流れた所を結構修復せないかんになりますのでね。これ真っ直ぐ向こうへ出てくれると、でこぼこがなくなると。

○滝川 これが里山のいいところで、すぐに見に来て、すぐ修復できます。これが奥地ですと1回終わると、次、10年後まで見に来ないので、もうどうなってるかわからない。こういうところでやると、すぐに見に来て、修復も可能と思います。

○中嶋会長 また修復するでしょうし大した修復にならない。こうやって、じわじわ、ええ道にしていってくれたら、壊れない道になるね。

○質問者 小石があってええですね。

○滝川 これは中くらいですね。あんまりよくないけど、まあまあなとこです。

○質問者 これやったら割れやすいで。大き過ぎても困る。なくても困る。

○滝川 最近石が出てこないと先に進んで、出てくるところで、軽トラに積み込みして利用しています。

○中嶋会長 ここが尾根になってるんです。尾根をヘアピン切りながら上がってます。これが幹線道です。向こうへ出てるのは支線です。

○滝川 水切りが下手で、あまり上手くは行ってないです。

○中嶋会長 まあ1年目なので。そこで水を切っという、ここでも切ってます。これぐらいのピッチで切ったほうがいいんです。20メートルもないぐらいで。

○滝川 ここは木を切り過ぎてるんです。それでやっぱり光が入るので。風も入って、この木はもう倒れそうになってるんですけど、実はここにもう一本あって、ここが先に倒れたんです。

○滝川 支線と支線の間が30メートルぐらいになるよう意識して道をつけてるんですけど、

ちょっと多いかも、もう一本減らしてもよかったかなと思いつつ、その辺も勉強しながらやっています。

○中嶋会長 こういう形でやると、ウインチをほとんど使わずとれます。多分使っていないやろ？

○滝川 ウインチは1回も使っていないです。

○中嶋会長 ウインチ使わずに出せるということです。それが特徴です。

○滝川 大体、上か下かに倒して、間伐のときは、もうグラップルにつけかえて、グラップルで木を掴んで道の上で造材するようにしています。

造材した木は林内作業車に乗せて、幹線まで出して、幹線のところに集めといて、2トン車に乗せて搬出しています。

○中嶋会長 先ほど、佐川町の役場の方からも説明があったように、こんなひよろひよろの40年ぐらいの木ですが、補助金も入れて月収的には30万円ぐらい言うたかね？

○滝川 そうですね。

○中嶋会長 この山でも、ウインチ使わないということは、ほんと低コストにできます。燃料代もかからずにやれてるので、彼は15日しか働いていないようですが月収30万円ぐらいになります。

○滝川 補助金を抜いたらどなるかなと思って計算してみたんですけど、間伐だけまとめてやってる期間が1カ月半ぐらいで35万円ぐらいの木材販売代になったので。経費を引いても30万円弱ぐらいにはなるので、間伐だけでも何とかできそうだなという試算はできました。

○中嶋会長 ここの山が一番恐れないといけないのが、このまま太らないということ。さっき言ったように間伐をすると、地面に水分が残りこれからぐっと太ってきます。そうするとA材率が上がって収入が上がります。

○質問者 葉が茶色くならないように道を入れたいと思ってるんですけど、もう既に入れてしまった道は、これから茶色くなるのか心配なんですけど、1年ぐらいたってみないとわからないでしょうか。

○中嶋会長 そうですね。それと、木の根っこがどれぐらいあるかが大きいです。

ここは、腐葉土が少なかったのが、水分をためにくい。普通はこれぐらいじゃあまり茶色になることはないんですけども、ちょっと予想外でした。かなり水分をため込みにくい山。だから、もう少し切ったら危なかったかもしれないですね。けど普通の山は

これほどにはならないと思います。だから状況見て判断してください。

○質問者 枝打ちをしたほうがいいんじゃないですか、その場合。どうなのでしょう。

○中嶋会長 いや、もう枝打ちせんほうがええと思います。もう枝打ち時期は終わってますのでこの山は。枝打ちは20年ぐらいまで、遅うても30年まで。今、へたに枝打つと、かえって腐りを入れたりする可能性があるんで、もうしないほうがいいと思います。

○質問者 作業道は何メートルぐらい入っているんですか。

○滝川 これは2ヘクタール、約800mぐらい入ってます。

○中嶋会長 結構入ってますね。

○滝川 大体、ヘクタール当たり300mぐらいがいいと言われているんですが、狭いから増えているんだと思うんです。これが広い範囲だと、幹線が少なくて、そこから支線が入るので。2ヘクタールという狭い施業地だから増えてるんじゃないかと思ってます。

○質問者 私の山が樹齢が55年ぐらいで、20年前に15%の間伐をやってます。次の間伐で県からは30%ということで指導受てるんですけど、減らしたほうがいいのでしょうか？

○中嶋会長 最近風と豪雨が激しいですので、道入れて3割切ると、もうほんと4割になりますから、止めておいたほうがいいと思います。

○質問者 機器のレンタルについてなんですけど、佐川町の場合は、バックホーは1日1,000円ぐらいで借りれるとか聞いたんですけど。

○滝川 500円です。でも佐川町は特別で、協力隊の事業費で機械をリースして、そのリースアップした機械をレンタルしてもらってるので、そういうのができるという。まず協力隊の制度をうまく活用した感じですけど。グラップルも、ユンボも、林内作業車も、2トン車も全部、大体それぐらいの値段で借りれるので、経費がほとんどかかりません。

3 実施現場研修地

(場所：坂本氏 施業現場)

○中嶋会長 この施業現場は主に坂本さん一人が作業をやっています。ここはさっきの滝川君よりは10年ちょっと古くA材率が上がってるので、材の売り上げが滝川君よりはかなり多いという状況です。それでは坂本さん説明をお願いします。

○坂本 紹介に預かりました坂本と申します。この山が施業を初めて2年目です。去年から実際入ってます。作業道入れるための路線設定はその前年に入れたんで、そこからいきますと3年目になるんですが、実際の作業としては、去年から始めて、去年は作業道を300メートルぐらいで。今年は作業道を入れつつ、間伐を2ヘクタール施業しています。

この山は8ヘクタールぐらいの山林でヒノキがメインにありますが、若干、杉があります。杉は、植えたのではなくて天然に種が落ちて育ったのだと思いますけど、ヒノキとしては、植林して、若いのが45年ぐらいで、古いのが、55年ぐらいです。

切り捨て間伐を20数年ぐらい前にやってあるんですが、それで成長もよかったです。平均長さも25メートルぐらいありますので、いい木ですと6メートルが2本とれます。元玉と2番玉と。そういったことで、収入面では、非常にいい山になっているんじゃないかなと思っております。

○中嶋会長 今年の台風、それから西日本豪雨、問題なく耐えています。道も入れたばかりですが、それほど水が流れた感もないですね。

○中嶋会長 町が近いこんな里山で、ヒノキをきちんと手入れしてくるとこういう状況で、残った木はほとんど6メートル2本とれました。次の間伐はめちゃくちゃ楽しみという山ですね。

○坂本 ここはほんとにいい山になると思います。

○中嶋会長 かなり6メートル材が出てますので。平均単価2万円と書いてましたから、2ヘクタール間伐すると、100立方ぐらい出れば200万円になります。

○坂本 そうですね。多分、今年は100立方ぐらいはいけると。

○坂本 ここは委託を受けて私が作業してるんですけど、目標は5割分収なんで、こちらの山主さんには非常に感謝されてます。去年も少なかったんですけど、十数万は返せま

したので今年は間違いなく数十万円は返せますので、非常に喜んでいただけて、私としても非常にやりがいがあります。

○質問者 売り上げの5割返すんですか。

○中嶋会長 売り上げじゃないんで利益です。

○坂本 利益ですよ。もちろん経費は引いてるんです。

○中嶋会長 売り上げは、作業道補助ももらえるであろうと思われますので、2キロ入ると400万円ぐらいになって、それに材の売り上げが200万円ぐらい乗ってきます。多分コストは、5,60万ぐらいでしょうか。ここで出た利益は、山林所有者と自分の人件費ということで出します。これがこの小規模林業の魅力で。次の間伐のときは、ここは補助金なしで大丈夫です。

○坂本 道が入れば。

○中嶋会長 ええ、非常に収入的にもいい山になるのではなかろうかと。それで今回、取り過ぎないというのが重要なこと。

○坂本 ここは、一応目標としては最低150年。天然更新したヒノキもあり、そういう木は400年生きると思うんで、200年以上を目指したいです。もちろん、そのとき私はおりませんけど。山主さんにもそういうのを理解していただくような活動もさせていただいております。

○質問者 この道は、さっきの林内作業車でもって木を出すことを前提につくられた道ということですか。

○坂本 一応、四駆のトラックであれば入れるのではと考えてます。

○質問者 ああ、そうですか。2トンぐらいまで上がれるんですか、2トンの四駆。

○坂本 そうですね、2トンの四駆ですね。

○中嶋会長 林内作業車と、管理で軽トラが上がってくるという感じでしょうか。

○中嶋会長 この道を入れて、間伐ができれば、ほんとに森もよくなるし、収入も良くなる。ぜひ、自分の周りを探してください。

この山でやっぱり一番怖いのが風です。これが風に揺られて。繊維断裂が起こらないように、風に揺らせないことが非常に重要。それさえ守っていけば、この山はずっともわかるし、持続可能な森林経営ができる山です。

- 中嶋会長 質問はありませんか。
- 質問者 伐倒はこのぐらい緩い傾斜だと、下に倒されますか？
- 坂本 基本は作業道に向けてです。
- 質問者 傷まないんですか。
- 中嶋会長 ええ、ヒノキは大丈夫やと思う。
- 坂本 下向きに倒すときは、木をそれなりに気をつけて、痛めないようには考えてやります。真下じゃなくて、斜めとか。
- 質問者 はい。ありがとうございます。
- 坂本 ヒノキですから、どうしてもかかりますのでね。
- 質問者 そうですよ。
- 中嶋会長 ほぼ100%掛かかりますからユンボがあるといいんです。滑車つけて、引っ張れますから。だから、道を入れた後に間伐すると楽です。
- 多分、ほとんどウインチを使わずに出せてると思います。さっきの滝川君も一切ウインチ使っていないって言ってましたけど、これぐらい道入ると、もうウインチ要らないと思います。だから楽です。ぜひその辺も参考にいただければと。
- 坂本 とにかく作業道の造り方を橋本さんとか、奈良の岡橋さんとか、そういう方に習えたっていうのが大きいです。
- 中嶋会長 ぜひ道のレベルを上げるために、そういうプロにどっかで習わないかと思っています。それで道が入って、常にユンボがそばにあるという状況で林業できれば、非常にコストも安くなって、自分の取り分も多くなるということです。契約型の人は、山林所有者へも多く返せるということになると思います。それで、山も痛めず、収入も増え、土砂災害も起こさないという、そういう林業を目指してほしい。そうすると、持続性が出てきて、地域の人にも喜ばれて、新たに林業をやる人も増え出すということかなと思いますので。
- これで皆まだ始めたばかりですので、後5年から10年したら、みんなプロになって、逆に他の人へ教えてるという状況になればいいと思っています。